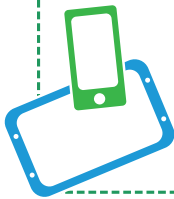


決算特別委員会の 討論(要旨)



令和7年決算特別委員会の
映像は区議会ホームページ
でご覧いただけます。



※決算特別委員会の審査結果は8面に掲載しています。

足立区議会 自由民主党

討論者



くじらい 実
委員

令和6年度当初予算は「命と暮らしを守りぬく。安心と活力のあだち」と名付け、コロナ禍の影響から日常を取り戻しつつある中で、自然災害や物価高騰等の区民生活を脅かす不安を取り除き、全ての区民が安心を実感し、区全体が活力あるまちになることを目指した予算編成であった。

特に、能登半島地震を教訓として、災害備蓄の積み増しや建築物の耐震化助成の拡充等、防災・減災対策を強化しつつ、福祉まると相談課創設による包括的相談支援の開始や持続可能な公共交通の実現に向けた実証実験に着手する等、区民に寄り添い暮らしを支えることを意識した施策・事業を推進した。

扶助費の増加、公共施設維持管理費や更新費の増大、物価高騰や建設コスト増加への対応等、持続可能な財政運営を目指しつつ取り組まなければならない課題は多くある。厳しい経済・社会情勢の下で、適正な行財政運営を推進していくことを要望する。

我が党委員が指摘した、シティブローションによる区のイメージアップ推進、キャリアサポートの充実等による管理職を増やすための取り組み、竹の塚のまちづくり推進、決算についての区民への更なる周知徹底、減額補正理由についての議会への報告方法の検討、第三子に対するメリハリのある支援、区民事務所長への管理職配置、自転車運転ルールの区民への周知啓発、物価高騰対策、デフリンピックの機運醸成、持続可能な介護保険制度の実現、パブリックスペースの活用による公空間の充実、地域の伝統文化への継承支援、さまざま意見がある学校統廃合について地元への真摯な対応と理解を得るための努力等、様々な提案及び要望事項を尊重し、その実現に向けて努力するよう強く要望し、討論とする。

足立区議会 公明党

討論者



たがた 直昭
委員

能登半島沖で最大震度7の巨大地震が発生し、改めて災害への危機感を高める中、令和6年度の予算は「命と暮らしを守りぬく。安心と活力のあだち」と銘打ち、自然災害や物価高騰等、全ての区民が安心を実感し、区全体が活力あるまちになることを目指した予算であった。特に災害備蓄の積み増しや、建築物耐震化促進事業の助成拡充等、自然災害に対する備えの見直しや防災・減災対策の強化等が実施された。

また、新たな挑戦として福祉まると相談課の創設による包括的な相談支援の開始や、鹿浜・入谷地域を対象に行うデマンドタクシーの実証実験による持続可能な公共交通の手段として着手する等、区民に寄り添い暮らしを支えることを意識した施策の推進が図られたことは評価するものである。更なる基金の将来への備えは今後も必要であり、誰一人取り残さない理念の下、区民に一層の安心と希望を届けられるよう、施策の充実を望む。

今回の決算特別委員会において、我が党の各委員が質問した、財政の見える化、小学校跡地の利活用、水害時における緊急車両の避難先確保、区内事業者向け支援の継続と強化、町会・自治会の更なる活性化に向けた取り組み、若者・女性の健康対策、建築入札案件の製作物の早期発注、細街路整備推進、入学準備金対象者から外れている児童・生徒への救済策、自動運転車両を活用したスマートシティ・チャレンジの取り組み、日暮里・舎人ライナーにおけるバスを活用した実証実験の取り組み、キャリア教育や包括的な性教育の取り組み、更なる子育て支援の拡充等、区民全般にわたる多くの要望や提案は、区民の切実な声と捉え、今後の予算編成を含め反映するよう強く要望し、討論とする。

日本共産党 足立区議団

討論者



山中 ちえ子
委員

一般会計決算の実質収支は127億円の黒字、実質単年度収支は55億円余の赤字、財政調整基金は490億円を超えた。当初予算と比較し、利子割・株式等譲渡所得割交付金は合計12億6千500万円余の増額、地方消費税交付金は17億円増額し、169億円余となった。令和6年度決算には格差拡大、物価高騰による消費税負担の増加、全国トップクラスの基金残高を維持し続けたこと等が表れた。物価高騰対策や区民への支援策は極めて不十分である。高齢者への配食サービスは日中独居世帯へいまだ実施せず、PayPay商品券による還元事業への上乗せだけに臨時交付金を活用し、全区民に対する施策への転換は行わない姿勢である。

大型開発や特定企業支援につながる事業には大盤振る舞いの姿勢で、北千住駅東口北街区再開発では100億円の税金投入で事業者がホテル建設を行い、旧こども家庭支援センター跡地利用では区の土地を民間デベロッパーに貸してマンションを建設する。竹ノ塚中央地区ではURのために早々に竹の塚第五公園を廃止した。

また、生徒・児童の不登校は過去最高となる中、学校統廃合で廃止にする姿勢は到底認められない。パブリックコメントの結果を真摯に受け止めることを求める。

国民健康保険特別会計は、平均保険料が前年度と比較して大幅に値上げし、子育て世代応援区分の設定による負担増が見込まれ、自営業や低所得者等への多大な影響が及ぶ中、認定するわけにはいかない。

後期高齢者医療特別会計は、本年10月から多くの高齢者の医療費窓口負担が倍に上がり、追い打ちをかける仕打ちである。

介護保険特別会計は、介護保険制度が始まって以来、基準額を値下げに踏みきったことは初めてであり認定する。

是々非々の会 (維新・参政・無所属)

討論者



富田 けんたろう
委員

令和6年度予算は区民に寄り添い、暮らしを支える姿勢が感じられる内容であった。経常収支比率は適正水準を維持、安全性を堅持しつつも機動的な運用により利回りを確保した点、高く評価する。

一方で、PayPay商品券事業や新型コロナウイルスのワクチン助成は、漫然とした予算計上に陥っていないか指摘をした。行政に対してブレーキをかけることも議会の大切な役割であり、行政需要が多様化する今こそ、既存事業の不断の見直しは避けられない。評価ツールでもある事務事業評価調査の抜本的見直しを求める。

また、ドッグランやスケートパーク等の整備は区民のウェルビーイング向上に資する取り組みだ。できない理由ではなく、どうしたらできるかを追求すべきであり、庁内横断的に連携し、課題に向き合うよう期待する。

受益者負担の適正化、後援制度の更なる充実、高齢者入浴事業を活用したフレイル・認知症予防、学校現場での外国人問題、防犯カメラのセキュリティ対策、PayPaY商品券を活用したふるさと納税、高校生応援支援金の再設計、「チョイソコ×せんじゅ」の乗り場改革、第三者承継を含む包括的な事業承継支援、共通投票所の設置や移動期日前投票所の導入、選挙妨害を未然に防ぐ取り組み、体感治安に基づく政策立案、ウェルビーイングの土台を築く教育・保育の質向上、ながら見守りの高度化、開かれた議会の更なる追求、職員のワークライフバランス確保など、現実的かつ未来志向な提案を行った。

今回の決算特別委員会において、検討・研究すると答弁のあったことについては、その進捗状況を迅速かつ丁寧に議会に報告するようお願い、討論とする。

都民ファースト・ 無所属の会

討論者



中島 こういちろう
委員

令和6年度当初予算は「命と暮らしを守りぬく。安心と活力のあだち」を基本理念として掲げ、能登半島地震を踏まえた自然災害への備えの見直しや、防災・減災対策の強化を図ると共に、地域の移動支援として「デマンドタクシー」の実証実験等も盛り込まれる等、生活の安全・安心を支える施策が数多く展開された。

物価上昇の影響を受ける中小企業や区民生活を守るため、「中小企業人材採用支援助成金」、「キャッシュレス決済還元事業」、「レシートde商品券事業」等、柔軟かつ実効性のある政策を適切なタイミングで実施してきたことは、高く評価する。

加えて、6回にわたる補正予算が編成され、当初予算で不足した分野への的確な追加配分が行われたことも、区の迅速な対応力を示すものである。

今後とも、より魅力ある足立区の実現を強く期待すると共に、本決算特別委員会において会派からは、分かりやすい区政財政情報の発信、学童保育室における歯磨きルールの構築、ドローン活用による防災力向上、少年消防団との地域連携強化、公園の更なる活用、アンダーパス冠水対策と情報提供の強化、部活動の地域移行の支援、グラウンドや会議室など公共施設の利便性の向上等を提案・要望した。

現代社会において直面する課題は非常に多岐にわたり、既に広く認識されている。しかしながら、それらの課題は単一の原因によるものではなく、複雑かつ多層的な要因が絡み合っており、容易には解決できないのが現実である。批判や問題点を提示するだけでなく、区職員と課題を共有し、協働して解決策を模索する姿勢こそが重要だと考え、引き続き共に前に進む視点を持つことを約束し、討論とする。